

令和7年度 京都府立嵯峨野高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>◇ 「和敬」・「自彊」・「飛翔」を教育の柱に据え、志を持って人生を主体的に生きる生徒を育て、世界のさまざまな分野でリーダーとして貢献できる人材の育成を目指す。</p> <p>◇ 「ほんまもん」の学びに出会い、一人一人が活躍できる学校を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの本質を知り幅広い教養を身につける授業を通して、未来へ続く学びの礎を築く。 ・フィールドワーク、実験、調査などを活用したラボ活動（スーパーサイエンスラボ、アカデミックラボ）を通して、課題設定・課題解決能力を育む。 ・海外連携校や留学生との国際交流を通して、多様な価値観に触れ、グローバルな視野と実践的英語力を育む。 ・生徒が中心となって取り組む学校行事、部活動を通して、豊かな人間性や協働性、リーダーシップを育む <p>◇ 嵯峨野GLIの実現を目指す。</p> <p>嵯峨野高校の教育を通して、志をもって主体的に社会とかかわり、将来、世界で活躍できるグローバル人材の育成を目指すという嵯峨野高校の教育理念。</p> <p>*嵯峨野GLI：嵯峨野グローバルリーダーシップイニシアティブの略</p>	<p>① スクールポリシーにもとづいて、日々の授業を中心に、本校の特色ある取組（SSH事業や探究活動、グローバル教育、探究成果発表会等）を分掌・教科間で連携して推進することができた。また、一人1台端末においては年度当初から運用できた。引き続き、教職員研修や各担当者会議等、授業研究をさらに充実させるとともに、「ほんまもん」の学びを実践していく。</p> <p>② 学習指導要領の進捗に伴い、観点別評価の定着は進んできているが、指導と評価の一体化を目指し、各教科においてさらに研究を進めていく必要がある。進路指導については各分掌・各教科が連携し丁寧に指導することができたが、生徒の進路目標が実現できるよう、新課程入試（共通テストや総合型選抜・学校推薦型選抜等）の動向や情報等を踏まえ本校の課題を分析し、今後も高い進路目標達成に向けた指導を教員間で共有するとともに粘り強く指導していく。</p> <p>③ あらゆる教育活動を通して、人権尊重の意識や身だしなみ、完全下校厳守等の規範意識向上に努めた。また、各委員会活動や学校行事、探究活動、部活動等において、生徒の主体性や適切な判断力・実践力の向上にも努めるとともに、生徒指導提要の趣旨に則り、校内におけるルールや規則の見直しについて生徒や保護者と積極的な意見交換をもとに改訂を進めた。今後、SNS等を含めた携帯電話に関するマナーについて啓発の継続の意識の向上を求めるとともに、生徒を一人ひとりと尊重し、責任ある行動を求める指導を行っていく。</p> <p>④ 個々の生徒の状況に応じて、関係機関や分掌と連携し教育支援を丁寧に行うことができた。委員会活動を通して環境美化意識の向上にも努めたが、ゴミの分別や節電意識の改善に課題がある。今後も、すべての生徒が自己肯定感をもち、心身両面において健やかに学校生活が送れるよう継続してサポートしていく必要がある。</p> <p>⑤ 学校説明会やブログ等を通して、本校のスクールポリシーや教育目標、教育内容の発信に努め、入学選抜における生徒募集にもつながった。また、ラボ活動や部活動を通して地域とかかわることもできた。今後さらに本校の魅力を伝える場面を多岐にわたり設定できるように努めていく。</p> <p>⑥ 設備の老朽化について、適宜改修を行うことができた。また、LED化や人感センサー等設備改善を進め、節電にもつながった。今後も状況に応じて適切な対応をし、安心安全な学習環境の整備につなげていく必要がある。また、ICTを活用した業務改善（デジタル採点等）を進めていく。</p> <p>⑦ 教職員の働き方改革の一環として、今年度からの完全下校の一部見直しや業務の一部削減に着手した結果、時間外総勤務時間の削減において一定の成果が見られた。引き続き、教職員の意識改革や業務の見直しにも取り組み、働きがいを感じながらも心身共に健康に働ける環境作りに努めていく。</p>	<p>① 魅力ある学校作り 主体的に学び続ける生徒を育てるため、「ほんまもん」の学びを提供する。</p> <p>② 組織とその運営 分掌間の連携を密にして、全校体制で教育活動を推進するとともに、様々な視点からの危機管理意識を高め、安心安全な教育環境の構築に努める。</p> <p>③ 学習と進路指導 新学習指導要領に基づく教育を推進するとともに、あらゆる機会をとおして、自己の将来に対する明確なビジョンに基づいた高い進路目標の実現に努める生徒を育成する。</p> <p>④ 生徒指導と特別活動 人権尊重の意識や、挨拶・マナー等の規範意識を向上させるとともに、多様な価値観を受け入れ、自立した行動ができる生徒を育てる。また、特別活動をとおして、主体的・協働的に行動できる人材を育成し、対話を重視した活気ある生徒集団を育てる。</p> <p>⑤ 健康安全と環境美化 すべての生徒が心身両面において健やかな学校生活が送れるようにサポートする。また、環境美化意識を高め、学習環境の維持や校内美化に努める。</p> <p>⑥ メディアの活用 学校図書館の機能や役割を充実させ、生徒の読書活動や探究活動をさらに活発なもとのする。</p> <p>⑦ 家庭・地域社会との連携と広報活動 校種間連携や外部との連携を進めるとともに、学校の魅力を広く伝え、中学生や府民から期待され、選ばれる学校をめざす。</p>

学校経営計画 具体的方策について

評価領域	重点目標	具体的方策 (R7)	評価	評価と課題
魅力ある学校づくり	主体的に学び続ける生徒を育てるため、「ほんまもん」の学びを提供する。	授業の質の向上に努め、学校全体で養う力「ACCEL [※] 」を意識した授業等を実践するとともに、将来にわたって主体的に学び続ける姿勢を涵養する。 ※「ACCEL」とは「Agency」、「Collaboration」、「Creativity」、「Expression」、「Logical thinking」の頭文字を表す。		
		探究学習での学びの過程や成果を生徒が自分自身の言葉で語れるようポートフォリオを活用した指導を行う。		
		海外連携校・在京留学生などとの相互交流や国際交流の機会、海外研修の機会を充実させ、グローバル社会と主体的にかかわる人材育成に努める。		
		ICT活用事例について研修を継続し、1人1台端末のより効果的な活用方法を研究・推進する。		
組織とその運営	分掌間の連携を密にして、全校体制で教育活動を推進するとともに、様々な視点からの危機管理意識を高め、安心安全な教育環境の構築に努める。	各種行事や取組について、事前調整を丁寧に行う等、関係分掌間の連携を密にし、円滑な実施に努める。		
		探究学習について、全教職員で取り組む体制を充実させ、教材や指導方法の共有化を進める。		
		教職員一人一人が様々な危機への感度を高めることにより、危機発生の未然防止に努め、危機対処方法への理解を深める。		
		委託業者による法定点検や校内自主点検を行い、学校施設・設備の安心安全の確保のため、校内体制を構築する。		
学習と進路指導	学習指導要領に基づく教育を推進するとともに、あらゆる機会をとおして、自己の将来に対する明確なビジョンに基づいた高い進路目標の実現に努める生徒を育成する。	学習指導要領における指導と評価や入試の状況を踏まえ、授業や評価の改善に向けた研修等の機会の充実を図る。		
		進路ガイダンスや面談をはじめ、あらゆる機会を通して生徒一人一人が高い志をもつようにはたらきかけるとともに、その実現に向けて互いに高め合い、粘り強く努力できる集団となるようサポートする。		
		探究学習の成果について教員間の共通理解を深め、その成果を活用した進路実現がさらに進むよう指導体制の構築を図る。		
生徒指導と特別活動	人権尊重の意識や、挨拶・マナー等の規範意識を向上させるとともに、多様な価値観を尊重し、自立した行動ができる生徒を育てる。また、特別活動をとおして、主体的・協働的に行動できる人材を育成し、対話を重視した活気ある生徒集団を育てる。	「人権三法」の確実な理解を土台に、基本的人権を尊重する心を育み、人権問題を直視し、解決に取り組む姿勢を育成する。また、多様性を尊重する意識と協調性のさらなる向上を目指し、系統的な人権学習を実施する。		
		生徒との対話を重視しながら、規範意識の向上や基本的生活習慣の確立に生徒が主体的に取り組む姿勢を育てる。		
		学校行事、部活動、生徒会活動などのあらゆる教育活動を通して、自己有用感、自他を尊重する態度をさらに向上させる。		
		3年間を見通した主権者教育やデジタルシティズンシップ教育の充実を図る。		
健康安全と環境美化	すべての生徒が心身両面において健やかな学校生活を送れるようにサポートする。また、環境美化意識を高め、学習環境の維持や校内美化に努める。	配慮が必要な生徒の実態把握に努め、保護者や関係機関との連携を密にして、卒業後も見据えた丁寧な支援を行う。		
		教室の換気や手洗いの励行など、生徒の感染症予防対策への意識を持続させる。また、空気検査やCO ₂ モニターを活用し、学習環境を整える取組に努める。		
		清掃活動や保健美化委員会の活動を通して校内美化に関する意識をより高め、学校全体で、節電、ゴミの分別と減量、美化意識の向上につながる取組を実施する。		
学校図書館の活用	学校図書館の機能や役割をさらに充実させ、生徒の読書活動や探究活動をさらに活発なものとする。	各種広報や企画展示等を通して、図書館の積極的利用を勧め、生徒の自発的・主体的な読書習慣の形成に努める。		
		図書館と各教科が連携して、図書資料等の整理・充実やICT機器の活用にも努め、探究活動の支援及び言語活動の充実を図る。		
		教職員の教科指導や研究活動に関し、資料・情報の収集に努め、図書の供用や情報提供等、教職員へのサポート機能の充実を図る。		
家庭・地域社会との連携と広報活動	校種間連携や外部との連携を進めるとともに、学校の魅力を広く伝え、中学生や府民から期待され、選ばれる学校をめざす。	大学等の高等教育機関や企業、地域等に加え、卒業生との連携も推進し、「ほんまもん」の学びを提供する。		
		説明会やホームページ等を充実させ、全校体制による、より効果的で受け手に響く情報発信に努める。		

学校関係者評価委員会による評価

次年度に向けた改善の方向性